

## 付属語 ① 付属語とは(助詞・助動詞の性質と働き)

1 付属語 …それだけで文節を作れず、常に自立語と一緒に文節を作る。

例 ・ふみひとは／いつも／一人で／寝るらしい。

2 付属語には二種類の品詞がある。

① 助動詞 …主に用言の後について気持ちを表したり、意味を添えたりする付属語で、活用する。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

② 助詞 …自立語や助動詞などの後について、語と語の関係を表したり、意味を添えたりする付属語で、活用しない。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

一 次の文章の―線部の中から付属語をすべて選び、記号で書きなさい。

良平は一瞬間あつげにとられた。①もうかれこれ暗くなる事、去年の暮れ母と岩村まで来たが、今日の途はその三、四倍ある事、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならぬ事、②―そういう事が一時にわかったのである。良平はほとんど泣きそうになった。③が、泣いても仕方がないと思った。泣いている場合ではないとも思った。彼は若い二人の土工に、取ってつけたようなおじぎをすると、④どんどん線路伝いに走り出した。

あくたがわりゅうのすけ  
芥川 龍之介 『トロッコ』 より

二 次の【】内の数をヒントに、各文に含まれている助動詞に―を、助詞には＝線を書きなさい。

① 隣の犬と向かいの犬は仲が悪いらしい。【助動詞1・助詞5】

② 授業でわからないことは、先生に聞いた。【助動詞2・助詞3】

③ 明太子をたらふく食べたいと強く思う。【助動詞1・助詞2】

④ 姉の踊る姿はまるで白鳥のようだ。【助動詞1・助詞3】

⑤ アザラシの赤ちゃんはまだ泳ぎが下手です。【助動詞1・助詞3】

